

ポブベっくのやさしい投資信託

第1回 投資信託とは

新聞や雑誌、テレビには連日のように、投資信託の事が取り上げられています。多くの方が、投資信託に興味を持つようになりました。しかし、まだまだ、投資信託が世間一般の生活に根付いた商品になったとは言えません。1,300兆円と言われる個人資産の中で、投資信託に振り向けられている額は、約60兆円。5%にも満たないので、株式投資信託に至っては、17兆円強。個人資産の1%強でしかありません。

しかしながら、預貯金に資金を振り向けても1年間で得られる金利はすずめの涙ほど。金庫代わりだと思っていれば、あきらめもつくかもしれませんが、やはり、多少のリスクは伴っても、もう少し利回りの高い金融商品を購入したいものです。しかし、このリスクが曲者。リスクって何？そう尋ねられた時に、戸惑わずに自信を持って答えられる方は、本当に少ないように思えます。投信を販売する人に聞いても、中には「リスクがあります。」の一点張りで済ませられてしまう場合だってあるでしょう。

「リスクがある」ことを認識するのは重要な事です。しかし、ただ「リスクがあります。」だけでは、十分ではないのです。

どういうリスクがあるのか？、

どのくらいのリスクがあるのか？

そのリスクを許容する事が出来るのか？

具体的な数字で示す事は出来なくても、こういったことに関して、イメージを掴まなければ、上の疑問に答えたことにはならないのです。そして更に重要なのは、投信のメリットです。

リスクがあるのに何故、その投信を購入するのか？

株式市場がどうなれば、期待したリターンを得られるのか？債券市場がどうなれば期待したリターンが得られるのか？

このような疑問に自信を持って答えられてこそ、安心してリスクのある商品を購入する事が出来るのです。

例えば、株式投信に関して、私は以下のように考えています。

企業は借金をして事業を営む 借金の金利よりも事業の利益は高いはず。

事業の利益が金利よりも高いのなら、株式の収益率も長期的に見れば、金利よりも高いはず。

つまり、株式の収益率の平均点を取れば、長期的には金利よりも高い収益を上げられるはず。

株式の収益率の平均点をとるために、分散投資をしましょう。

分散投資を少ない金額で、安いコストで行うには株式投資が一番。

ただし、投資信託で時間の分散は出来ないで、少しずつ定期的に株式投信を購入しましょう。

リスクを認識するのは大切な事です。しかし、もっと重要なのは自分の資産運用を真剣に考える事です。資産運用の対象として、投資信託は非常に有効な手段です。これをきちんと理解することで、「今」ではなく、「将来」安心することが出来るのではないのでしょうか。